

平成 26 年度 坂小学校区きずなづくりトーク トークまとめ

7月23日(水)に開催された「坂小学校区きずなづくりトーク」にご出席いただきまして、誠にありがとうございました。トークのまとめができましたので、送付いたします。

なお、坂小学校区では、【防災訓練】【地域の連携】の2つの分野について、意見交換や情報共有が行われました。(市のホームページにも掲載)

問合せ 地域安全課 きずなづくり推進室 (電話 9 8 3 - 2 7 0 8)



皆さん、ご参加ありがとうございました。

【当日参加団体一覧】

団体名		
台崎町内会	体育振興会	坂小学校 PTA
市山新田自治会	民生委員・児童委員	錦田中学校 PTA
三ツ谷自治会	第13分団	学校支援地域本部
笹原自治会	第14分団	錦田地区地域包括支援センター
山中町内会	坂幼稚園	市山子ども会
環境美化推進委員会	坂幼稚園 PTA	
スポーツ推進員	坂小学校	

※当日参加者 29 名



アンケート：分野ごと最も話したいテーマについて、参加者の希望を伺いました。

【会場アンケート結果】

	検討テーマ
防災訓練	①災害時の情報伝達について考えよう！・・・・・・・・12人 ②救出・救助の方法について考えよう！・・・・・・・・14人 ③その他・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2人
地域の連携	①これからも地域で子どもを育ていこう！・・・・・・・・12人 ②地域行事を盛り上げるためには？・・・・・・・・14人 ③皆できれいな町をつくろう！・・・・・・・・1人

下記のテーマにもとづいて発言された内容について、現状・課題を「今まで」、課題解決につながる取り組み・アイデアを「これから」に分類し、まとめました。（○：参加者発言 ●：市長発言）

【防災訓練】

今まで	これから
<p>テーマ① 災害時の情報伝達について考えよう！</p>	
<p>○市山新田の公民館(避難所)は地盤が悪くて、一昨年には地盤沈下し、公民館のかさ上げ工事を行っている。公民館が安全かという、そうでもない。</p> <p>○東日本大震災の時に、沼津にいた。携帯は使用できなかった、家族と連絡がつかず、自分が無事なことを伝えることができなかった。「171」伝言ダイヤルという、情報を伝える方法があるが、大多数の方がやり方を知らないと思う。</p>	<p>○正しい情報を伝えないといけない。訓練をして、どこが安全か情報をうまく伝えられるようにする必要がある。8月に防災訓練を行うが、マンネリ化しているので、情報伝達等を考えながらやっていこうと思う。</p> <p>○災害時、各自がどう動くか考えるといいのではないか。それが自分の身の安全にもつながるし、「171」の使い方を覚えることで、災害時の対応ができる。学校や勤めに出ているなど、場所によって、自分のとる行動が変わるはず。それを自分なりに考えて、やってみることが大事。</p>
<p>テーマ② 救出・救護の方法について考えよう！</p>	
<p>○三ツ谷自治会では、今まではただ坂公民館に集まって訓練していただけだったが、今年は初めて「黄色いハンカチ」を用意した。</p> <p>●「黄色いハンカチ」は我が家が大丈夫という印。玄関先にしばっておくと、安否確認が容易になる。</p> <p>○高齢者の自立歩行困難な方などをどういう風にして救出するのか。</p> <p>○民生委員は災害弱者の方を調査し、要援護者リストを作成している。</p> <p>○個人情報保護で要援護者の情報を公表しないようになっているが、要援護者は自分から「援護してください」と手を挙げた方。一般の人に公開しても問題ないのではないか。</p>	<p>○「黄色いハンカチ」を使った訓練と、救急医療品を用意してあるので、どのように使うか、使える人がどれくらいいるのかなど、そういったことをまず確認・経験してみたいと思っている。</p> <p>●防災訓練の時、用事があって参加できない家でも、訓練参加の意思を示すためにハンカチを掲げるなど、訓練時から活用してほしい。</p> <p>○自立歩行困難な方を救出するには、まず個人情報を出してもらい、把握する必要がある。</p> <p>○要援護者リストを上手く活用してほしい。</p> <p>○自治会役員、防災役員と民生委員と一緒に情報を共有することが大事だと思う。災害時は、その情報を活用して、自治会主体で災害弱者を救出してほしい。</p> <p>○もう少し要援護者リストの扱いをフリーにしてほしい。</p> <p>●要援護者とは、一人暮らしの高齢者と障がいを持っている方。「助けてもらいたい方のリスト」を渡すので、そのリストを基にどうサポートしていくか、計画づくりをしてほしい。「助けは必要ない方のリスト」は封をして渡すので、災害時に開封し、安否確認に使用してほしい。</p> <p>●要援護者の救助については、芙蓉台が素晴らしい活動をしている。高齢で元気な方が、サポート隊を作り、毎月訓練を行なっている。</p> <p>○多呂に住んでいる。組長になった5年前に、組</p>

今まで	これから
<p>○自治会や民生委員の方が、地区にどういった方がいるのかと集めた情報を、その後、どのように皆に知ってもらおうかが課題だと思う。</p> <p>○災害時は、どうしたらいいか迷うようなことが多く出てくると思う。</p> <p>○坂小学校に校長として赴任して2年目になる。他地区から来て思うことは、坂地区の強みは、地域の方の顔が見えること。高齢者の把握などは、他地区に比べて素晴らしい。</p> <p>○坂地区の弱みは「校区の範囲が広い」「医療品がない」「寒さ」。例えば、小学生が通学中に大きな事故にあった場合や、国道で車が事故を起こしても、ある程度の医療品や水も用意されていないし、病院やドラッグストアもない。三島病院にどうやって行くのか。土砂災害があった場合なども、子ども達の命をどう守るのか。広範囲であることが、救出・救助のネックで、遅れを取るようになるのではないかと非常に不安に思っている。また、冬場は非常に寒い。体育館に逃げても暖がとれない。電気が来なくなればストーブも焚けないので、電気を使用しない電池式のストーブなどが必要になってくる。</p> <p>●昨年、県から第4次被害想定が出たが、三島市の最大震度は6強。</p> <p>●自らの命は自ら守ることが大前提。</p> <p>●AEDの設置場所やAEDの使い方が、携帯・スマホでわかるようになっている。</p>	<p>長として自分の組28軒全部回って、「家族カード」を作成した。個人情報を出さない家もあったが、ほとんどの家は、「災害にあった時の連絡先」や、「老人だけなので、家の中まで様子を見に来て下さい」、「あまり動けないから黄色いハンカチも、外に掲げられない」など、情報を伝えてくれた。代々の組長が家族カードを持っているし、コピーした物も町の方で公民館に保管していた。</p> <p>○まずは自分の住んでいる家の近所、両隣の高齢者の様子を見て頂けるといい。</p> <p>○坂地区は「隣近所の連携が強い」という特徴があるので、それを強みにしていけばいいと思う。</p> <p>○隣近所で声をあげて、お互いにどんな状態や問題があるか分かってもらうことが大切だと思う。</p> <p>○この地区の特徴というところで、色々指摘があった。非常にリアリティがある。「こういう場合はどうするのか」「こういう場合、こういうことが起こるのではないか」など、現実的な想像をして、色々なことをシミュレーションして考えると、この地区の弱点が見えてくる。ぜひ皆さまもそれぞれの地域の特性を踏まえて、想像力を働かせ、そこから、具体的に必要なことを積み上げて頂きたい。</p> <p>●この地区は昭和5年の北伊豆地震で大きな被害を受けている。北伊豆地震を参考に、どう備えるかしっかりした体制作りを進めてほしい。</p> <p>●自宅の耐震補強や、家具の倒れてくる所に寝ないことなどを心掛けてほしい。</p> <p>●消防団の方、あらかじめ携帯・スマホへ登録の仕方を皆に教えてあげてほしい。</p>

今まで	これから
テーマ③ その他	
<p>○中学生は体力的にも大人と変わらない。</p> <p>○町内会の防災訓練はどうしても土日になる。中学生は部活動の関係で、防災訓練の参加が困難。</p> <p>○現在 22 歳の息子が中学生だった時は、坂地区の防災訓練に参加させた。大人が指示を出して、テント設営などの単純な力仕事をやらせた。</p> <p>○消防団は有事の際、かなり力を発揮する。</p> <p>○消防団は月 2 回定例で可搬ポンプなどの訓練をやっている。今まで小学校で放水体験はやったが、実際の消防団の訓練に子どもが参加することはなかった。</p> <p>○「地震があったら、家族でどこそこに集まろう」「ここに食糧や水がある」「第一避難所で落ち合おう」など、まず身を守るために必要なことを家族で話しあうため、家庭の対処法を知りたい。</p> <p>○「自分の身は自分で守る意識」が一番大事。そういった意識を深めてもらう。</p>	<p>○災害時や火災の火事場などで活躍できるよう、もう少し本格的な訓練(体験)を日頃からさせてあげたい。</p> <p>○地域の防災訓練以外で、日常的に中学生が防災についてのスキルが学べる機会、トレーニングできるような機会を設けてほしい。</p> <p>●錦田小、西小、東小では防災キャンプを行っている。北小では命を守る教育として、PTA 主催で防災学習会を実施した。「はじめて自治会長の顔を知った」「自分の町内が分かった」など、町内のきずなづくりになった。PTA 関係者は PTA 主催の防災キャンプを検討して頂きたい。</p> <p>○部活など忙しいと思うが、前々から計画して「この日は部活を休ませてください」という形にできればいい。大人に交じって子どもが活躍する訓練経験も大事。「あなたたちがいてくれて助かるよ」くらい言えば、子どもは調子に乗るので、そういうことでいいと思う。</p> <p>○小学生、中学生が消防団の日々の訓練に参加するなど、消防団活動を通じて、災害時の対策を知っていくといいのではないか。</p> <p>○消防団の訓練に小中学生が参加する試みはいいことだと思う。実際にやらなくても見ることによって勉強になると思う。中学生が来るならば、それなりの対応をする。</p> <p>○消防団の新入団員を募るのは大変なので、中学生の頃から、目に見える形で消防団の活動を教えていくのも必要なことかと思う。将来、その子達が大人になって、地域を守る消防団員になるきっかけになるのではないか。</p> <p>●北上地区の第 4 分団は「消防フェア」を行い、地域の自治会長など色々な方が参加している。そういう時に小学生が参加するといい。他に、長伏小学校区は運動会の時に、消防団の訓練を実演する。</p> <p>○本当に何か起きた際には、自分で自分の命を守れるよう、「こういう時にはこうしようね」ということを家庭で教えたい。家庭で教えられるよう、大人達が学び合える場があるといいと思う。</p> <p>○災害はいつ起きるかわからない。家族でいる場合、そうでない場合などを想定した話し合いを、家庭の中でしてもらえるといいと思う。</p>

【子どもの健全育成】

今まで	これから
<p>テーマ① これからも地域で子どもを育てよう！</p>	
<p>○他の幼稚園では4才児は15人以下だと編成しないということで、無くなった幼稚園もある。坂幼稚園も園児数は満たないが、地域に幼稚園がないと困るということで、存続させてもらっている。</p> <p>○幼稚園に勤めていて感じることは、坂地区は地域の方々を含め、他にはない自然にも恵まれた素敵なおとこだが、住んでいると気がつかなくなってしまうということ。外部からは評価されるのだが、住んでいる人は出ていってしまうという話も聞く。</p> <p>○子どもが坂幼稚園、坂小学校に通っている。自然環境が豊かな所で、富士山は見えるし、下もすごくきれいに見えるし、芝生もある。坂地区を評価してもらえることは感謝している。中でも地域の方がクッキングボランティアで参加してくださったり、小学校の農業体験では、たくさんの方に関わって頂いている。</p> <p>○坂幼稚園は少人数なので、一人の子がたくさんの経験ができ素晴らしいと思う。坂幼稚園が大好きだが、集団生活も大事だと思うので、あまりにも園児数が少ないと、このままでいいのか悩んでしまう。</p> <p>○中学校 PTA に携わって今年で4年目になる。色々な場面で、坂地区の良い部分をたくさん聞いている。子どもが少ないこともあると思うが、子どものことを地域の大人がほとんど全員知っている。非常にうらやましい話。</p> <p>●「子どもは地域の宝事業」は地域で子育てをサポートする制度。ほとんどの自治会で取り組んでくれるようになっている。</p>	<p>○いつまで存続できるのかという思いもあるが、子どもたちを大切に思っている地域の方々がいるので、もっと子どもが増えてほしいと思う。</p> <p>○「子どもは地域の宝」とよく地域の方に仰って頂いているので、皆がここで幸せに暮らせて、ここは素晴らしいところだと感じられるようにするため、子どもたちが色々な地域行事に参加したり、地域の中で大切に思われる幼稚園を目指してやっている。</p> <p>○「ぜひこういうところで子育てしませんか」「坂地区にはこういう良さがある」など、地域から「子どもを大事にできる町」だと発信してもいいのかもしれない。坂幼稚園のPRにもなる。</p> <p>○より多くの高齢の方が幼稚園や小学校にどんどん入り、それぞれの得意分野を活かし、色々なことを子どもたちに教えて頂けたらと思う。そういったつながりがあれば、地域にこんな方がいるという気付きになる。</p> <p>●学校支援地域本部もできている。教育は、学校と家庭と地域が連携する方向になっている。</p> <p>○地域でもお手伝いして頂いて、もっと坂小・坂幼稚園の特色を出せるといいのではないかな。例えば、児童クラブなどで長い時間子どもの面倒を見てもらえれば、働いている母親にとっても助かると思う。坂地区の良さをもう少しPRして、できれば下から来てもらえるといい。</p> <p>○坂地区では「子どもは地域の宝」だと多くの方が思っている。この形が理想かもしれない。こういった形を坂地区だけではなくて、坂地区の皆さんの力を借りながら、錦田中学校区として、広げていけたらいいなと思っている。</p> <p>●地域全体で子どもを育む三島にしたい。</p>
<p>テーマ② 地域行事を盛り上げるためには？</p>	
<p>○「山中城祭り」がなくなった。以前は子どもたちとの触れ合いもあり、盛り上がっていた。</p> <p>○山中は超高齢化社会になっている。地区の行事もだんだん人が少なくなっている。先日の地区行事には見晴学園から人を招き、盛り上げている。</p> <p>○どうしても高齢になると外に出なくなる。いかにし</p>	<p>○できれば「山中城祭り」を復活させてほしい。</p>

今まで	これから
<p>て外に出させるかが、山中の問題になっている。</p> <p>○今年、39 回目の運動会があるが、子ども的人数が少ないので参加人数が減ってきている。高齢者の「運動会に参加する」という気持ち、また「家から出る」ということが非常に大切なこと。</p> <p>○お年寄りの方にできるだけ行事に参加して頂くことで、身体の様子や、まだしっかり歩いて歩けるなど、様子が分かる。</p> <p>○自治会で色々な行事を行うが、参加する方が限られ、毎回同じ方が参加する状況だった。</p> <p>○「山中城祭り」が終わってしまった代わりに、市では花を植えている。「山中城祭り」では、いつも皆さんが来る前にお経をあげ、それから出陣式という儀式に入っていた。それが無くなるのは寂しいので、「供養祭だけは続けてやろう」ということになった。</p> <p>●地域のきずなを深めるには、一つ目、お祭りを盛大にやるのが大事。阪神淡路大震災では、お祭りをやっている地域はすぐに指揮命令系統ができて、避難所生活も円満・円滑にいった。二つ目、運動会の目的は健康づくりときずなづくり。子どもから大人まで一堂に会する機会は運動会しかない。三つ目は防災訓練。この三つがきずなづくりの柱となる。</p> <p>○地域の行事に「みしまるくん・みしまる子ちゃん」を要請したら、来てもらえるのか。</p>	<p>○外に出ないと足腰が弱り、弱ると出られなくなってしまう。運動会の種目に関して、その辺を考えなくてはいけないと思うが、まだ結論は出していない。検討中。</p> <p>○各家に行ってお年寄りの様子を尋ねるより、日頃の自然体を見ているとよく分かる。そういう意味でも、地域行事を大事にしていくといい。</p> <p>○笹原自治会では親睦を深めるために、今年役員と相談し、日帰り旅行で東京スカイツリーへ行ってきた。夫婦や子ども連れなど、日頃出て来ない方も参加され良かった。これがきっかけで、色々な行事に参加するようになればいい。</p> <p>○供養祭が終わったあと、何をやるか考え、そば打ちの仲間をお願いをして、集まった皆さんにそば打ち体験をしてもらったり、そばをふるまうなど、去年から新しい行事を始めた。非常に好評で、お年寄りも喜んで来てくれた。そうやって集まることを大事にしたい。</p> <p>○地域行事を固定観念で考えないで、新しいことにチャレンジしている。行事の復活という話もあったが、行事をもう一回見直すことと、目的をどこにするか、何のために行事をするのかを検討することも大事。</p> <p>○「地域の行事を盛り上げること」が「救出・救助」につながる。地域行事には、「高齢者の状態の確認」と、「外に出てくるきっかけ作り」という位置付けがある。普段のお付き合いや行事から地域のつながりを構築していったらどうかという意見が出た。それはこの坂地域ならではのストーリーなのかもしれない。地域の特徴を長所として活用して頂きたい。</p> <p>○市で「みしまるくん・みしまる子ちゃん」を出すと人件費がかかる。中に入る人を用意してくれれば、貸出する。ぜひ使って頂きたい。</p>
<p>テーマ③ 皆できれいな町をつくろう！</p>	
<p>○2月の2回の大雪では、市山新田もかなり厳しい状況になった。トラクターやローダーを出し、自分達で除雪をした。他地区では市でローダーを出し除雪したという話なので、「ガソリン代くらい出してほしい」と要望したが、「出せない」ということだった。少しでも補助金を出して頂けると助かる。</p>	<p>●自分たちの地域は自分たちで守ることが原則。</p> <p>●普段雪が降る地域ではないので、除雪車はない。建設会社に連絡して除雪してもらうことになる。幹線道路は国交省と県と市で対応するが、町内の道路は町内でってもらうしかないことを理解してほしい。</p>

今後の地域活動の参考にしてください！